

組合だより

発行所
岡山大学職員組合
 〒700-8530 岡山市津島中2-1-1
 電話 086-252-1111 (代)
 (内線) 7168
 086-252-4148
 直通・FAX

第44号

12月17日
2002年

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyone.jp/home/ODUnion/> メールアドレス ODUnion@mb4.seikyone.jp

法人化でどうなる、労働条件？

(上)

副委員長 **榊原 精**

法人化は目の前に迫っています。私たちの労働条件はどうなるのでしょうか？
榊原副委員長に重要なポイントを簡単に解説してもらいました。

2004年4月1日

法人化に向けて、岡山大学では戦略会議などで準備が進んでいきます。全大教も独立行政法人基本法による法人化には反対しつつ、法人化に対応した学習会を行ってきました。ここでは教職員の労働条件に限って、学習会で得た知識とそれに基づいて私を述べさせていただきます。なにか、系統的でもないし間違いもあるかと思いますが、大事な割には皆さん余りなじみのない話ですので、紹介する意味はあるかと思えます。今後の議論のき

1 国家公務員法、
人事院の世界から
労働基準法の世界へ

っかけにしていただけ
ればと思います。

教職員の賃金、労働条件は法人ごとに異なり、使用者が就業規則(注1)として決定します。労働基準法は最低基準ですから、現在の水準は保証されません。教職員の要求を反映させるためには、労働組合による団体交渉が必要になります。賃金はこれまで給与と人事院勧告の下で

一律に決まっています。たが、法人では財源の範囲内で自由に決められます。法人は成績主義の導入によってインセンティブを与えることに積極的になると予想されますが、国の交付金の増加が見込み薄の中では、減給になるひとも少なくないでしょう。過度の成績主義をチエックする必要があります。

労働時間に関しては一、日8時間・週ち時間の原則がありますから、使用者が教職員に時間外労働(超勤)をさせたいときには、労働協定(注2)が必要で、現在大学職員は、予算内で超勤手当を配分しつつ、ほとんど制限無しで時間外労働をしているのではないかと考えられますが、労働協定のない時間外労働は違法となり、罰則の対象となります。

日本企業では特殊にサービスク業が常態化していますが、これは許されぬことです。昨今、労働基準監督署もサービスク業には、未払い賃金の支給を命じるなど厳しく指導する方向が顕著になっています。いま大学は多くの改革課題を抱え、業務も複雑化し増大しています。限られた人員で効率的に働かざるを得ない状況があり、しかもゆとりのある職場を作っていくためには、みんなの英知を結集する必要があります。そのためにも組合が現場からの声を挙げていく必要があると思えます。

教員については特殊な状況なので、フレックスクス制などが検討されているようですが、これも労働協定がなければ実施できません。(45号に続く)



榊原副委員長
(工学部)

1日、衆院憲法調査会が中間報告書を提出した。憲法論議が、いざいざにも始まるだろう。「憲法論議の視界を、もっと広げる必要はないか。各界の30代、40代から論を募った。」と、3日付の朝日新聞。読まれた方も多かるうと思うけれど、いくつか会心の論点が指摘されていた。大塚英志氏は、戦後中国から引き揚げ、引き上げ住宅で成長し、近所の年上のお兄さんを慕っていたが後か朝鮮国籍の人であったことに気づくという体験の上に、現在の拉致問題を考える。「ぼくたちが日本という国は戦時下の責任をもう過去のことで済んだことだと、やり過ぎしてはこなかつたのか。」それは「戦後の出発点を忘却しているから」ではないか。戦後の出発点とは、「アジアの国々を戦争に巻き込み、自身も唯一の核の被爆国となった体験」であり、だからこそ「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持」することを決意し、「全世界の国民が「平和のうちに生存する権利」があることを確かめたはずだ」という「喜名真弓氏は、中学時代「すべ

ての国民は、個人として尊重される」「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有する」という憲法に触れて感動した。だが、現実はどうか？ 疑いだしたのには、現在移設問題で揺れている普天基地の近くに、11年前の出産を機に移り住んでから「だ」という輝かしい規定に満ちた憲法は、「まるでだれも目に留めない古びた掲示板のようにむなしく飾られているだけに思えた。国家の安全保障という名のもとに、人々の安全が脅かされていたのである。」というのが、喜名氏の結論である。沖縄では「性暴力」が絶えない。「軍隊すなわち暴力の存在を肯定したままでは、決して女性の権利は守られない。氏は「まずは、個人を尊重する」と掲げた憲法の原点に立ち戻ってみてはどうか」と提案する。個人が尊ばれ、平和で安全な暮らしの実現こそが現在の課題ではないかとして、氏は問いかける。「私は、憲法は米国の押し付けだ」と主張し、改正を提案する人たちにあって問いたい。押し付けられて人々の平和と人権を侵害しているのは、本当に「憲法」なのですか。(い)

アメリカのイラク攻撃が迫ろうとしている！

イラク攻撃反対集会

岡大でも開かれる 12月9日 南生協前で

アメリカのイラク攻撃が迫ろうとしている。今、世界では、大勢の人たちが反対の声を上げています。日本でも、東京ほかで少しずつ反対の声が上がりはじめました。岡山でも、名誉教授の野田隆三郎先生の呼びかけで、9日(月)のお昼休みに、ささやかながら反対集会が開かれました。

川合淳介教授、竹内和夫名誉教授、矢山有作(元衆議院議員)武田英夫岡山県議会議員、脇本寿(基督者平和の会長)、難波幸矢(日本基督教団東中

12・9学内集会アピール

平和を求める世界の多くの人々の願いに反して、アメリカはイラクへの戦争を強行しようとしています。アメリカはイラクの大量破壊兵器が脅威であると言いますが、圧倒的多数の大量破壊兵器を持っているのはアメリカであり、そのアメリカがどうしてイラクを非難できるのでしょうか。アメリカの大量破壊兵器こそが、いま現に世界中に戦争を引き起こし、世界に脅威を与えているではありませんか。アメリカは自国が査察されることを嫌って生物化学兵器協定の強化査察の妨害をしています。そのアメリカがイラクには無条件・無制限の査察を強要し、違反すれば戦争をしかけると脅しているのです。こんな発生の不都合があつていいのでしょうか。アメリカの行為は「武力攻撃が認めない」国連憲章に著しく違反するものです。アメリカの本当の狙いは世界第2位の埋蔵量をもつイラクの石油です。アメリカの言いなりにならないフセイン政権を倒し、アフガニスタンのような傀儡政権を作つてイラクの石油を支配しようとしています。イラクは前の湾岸戦争で大量に使用された劣化ウラン弾放射能と長年にわたる経済制裁(兵糧攻め)により、この10年間に百万人以上が白血病や栄養失調で死亡しました。この上さらに戦争をしかけることがどうして許されるのでしょうか。このようにアメリカのイラク攻撃には一片の正義もありません。に片もかわらず、アメリカはすでにイラク周辺に大量の兵力、艦船を派遣し、武力攻撃の準備を着々と進めています。残念なことに小泉首相は国会審議、さらには閣議決定すら経ないまま最新鋭のイージス艦派遣を決めるなど、有事立法を先取りして独断的にイラク攻撃に加担・協力しようとしています。政治家に任せている戦争をとめることはできません。いま世界中で市民・学生が戦争反対の行動に立ち上がっています。ワシントンで20万、ロンドンでは40万、そしてフィレンツェでは百万も人がイラク攻撃反対のデモを行いました。私たちも世界中の正義と平和を愛する人々と連帯し、イラク攻撃反対、有事立法阻止のために奮闘することを宣言するものです。

2002年12月9日

イラク攻撃に反対する学内集会参加者一同

0人くらいでした。わが国でも、遠巻きにするような形で、アップピルに耳を傾けていました。この中に軍隊経験のある人はいないでしょう。私は軍隊経験がある。今、戦争が起これば、私に出でこいというものはいいないだろう。あなた方自身の問題ですよ。」といった訴えに、ある種の反応があつたようにも見えました。アメリカは、なぜ戦争をそこまでしたがるのか。考えてみれば不思議ですが、経済力、軍事力などと並んで、国際環境保護関連法の不批准なども世界第1というアメリカの体質と不可分ではないかといった話も、説得的でした。戦争を宗教対立だとする解説もよくあるけれど、事柄の本質はやはり経済で、この場合もアメリカの石油戦争なのだという訴えもありました。言い古されたこととはいえ、否定できない真実なのでしよう。

マスコミ論調に対する批判もありました。理不尽な戦争を仕掛けるようとするアメリカを非難する論調がほとんどないこと、イラクがちゃんと査察に依る報道がほとんどなのは、一日佐渡へ渡った。観光旅行である。お定まりの順徳陵など流人の遺跡をめぐる。むろん、金山あと宗太夫坑がある。金山の繁栄の陰に過酷な水くみ作業で命を縮めた無宿人たちの墓地。無数といつていい水子の霊をまつる賽の河原など。もの悲しい思いを抱いて帰ったホテルでは、おけさシヨウをやっていた。あの佐渡おけさをはじめとして佐

渡の民謡が、同じような振り付けの踊りとも流される。どつと笑うて立つ波風のノ荒き折節義経公はノ如何しつらん弓取落としノしかも引き潮矢よりも早く相川音頭である。弱い弓を敵の手に渡すまいとして落とした弓を危険を冒して回収する「弓取り」を題材とした文句が、哀調を帯びて流れる。弓を敵舟が待ちかまえている沖へ流す潮の流れは、矢よりも早い御曹子危うし。それにしても、なぜそんな弓を取り落とすのか。頼りなげな子供や弟を見守る母か姉の視線が、この歌詞にはこめられている。やがて貴公子は「弓を御手にとりて元の渚にあがらせ給う」のであるが、三味線の哀調は変わらぬ。貴公子を待ち受ける後の悲劇を誰もが知っているからなのだろうか。天皇から無宿人、犯罪者まで、佐渡には流されてきた。その人たちの薄倅を哀れむ思いが、佐渡にはそこはかとなく漂っている。波荒き島に哀しき三味の音

(k)